

第3期開講式・第1回詳報

震災知り風化防止を

131人登録グループ討論で決意

311
次世代塾
伝える／備える



グループワーク後、話し合った内容を班ごとに発表した
=20日、東北福祉大仙台駅東口キャンパス

東日本大震災の伝承と防災啓発の担い手育成を目指す通年講座「311『伝える／備える』次世代塾」第3期の開講式と第1回講座が20日、拠点となる東北福祉大仙台駅東口キャンパス(仙台市宮城野区)であった。受講登録した大学生ら約100人が参加した。

開講式で、主催する「311次世代塾推進協議会」顧問の今村文彦東北大災害科学国際研究所長は「1年間しっかりと学んで、震災を語り継いでほしい」と激励。受講生代表は「被災地や被災者と思いを共有し、震災を伝えていけるように学びを深めたい」と決意を述べた。

続く第1回講座では11班に分かれ、「自分にとっての震災」をテーマにグループワークを実施。受講生からは「震災を風化させてはいけない。家族や友人らに伝えていくため、まずは震災を知ることから始めたい」「当事者の思いに目を向け、自分の中でしっかりと受け止めて発信していく」などの声が上がった。

受講生は、25日までに131人が登録した。うち大学生が116人を占め、社会人や高校生らが15人。宮城県内の114人に加え、山形、福島、東京、大阪など県外からの参加者も17人いる。

講座は東北福祉大仙台駅東口キャンパスを主会場に、来年3月までに計15回実施する。発災直後、復旧期、復興期の3段階に分けてテーマを設定し、津波被災地の視察も3回予定している。



生徒の命守りたい
中学校の教員を目指しています。生徒に震災について伝えることで、命を守りたいと考えて次世代塾受講

を決めました。マスメディアの情報だけでなく、震災を経験した人たちの生の声から学んでいきたい。
(大崎市・東北学院大4年・田中琢夢さん・22歳)



体験聞き深く理解
震災時は仙台にいたものの大きな被害はなく、震災のことを聞かれても詳しく答えられませんでした。被災

地を訪れ、被災者の体験を聞くことで震災をより深く理解できます。その上で防災、減災を学習したい。
(仙台市青葉区・宮城大3年・佐藤水月さん・20歳)



強い思いが刺激に
防災や復興の調査に関わる仕事をしています。受講生は強い思いを持つ人が多く、刺激を受けました。被災

者から生の声を聞き、被災地から自分の目で見て教わったことを次世代につなげたい。
(仙台市青葉区・東北管区行政評価局・村上遼さん・24歳)



地元の良さも発信
震災について学んだことを伝え、東北と全国をつなぎたいと思い受講しました。互いに意見を交わし、当

時を知りたい気持ちはみんな同じだと感じました。震災を乗り越えた地域の良さも発信したい。
(仙台市泉区・宮城学院女子大3年・土門令奈さん・21歳)



もつと現地の話を
復興ボランティアの活動をきっかけに、震災を知りたい、もつと現地の人の話を聞きたいと思うようにな

りました。被災者の数だけ物語があるということを胸に刻み、しっかりと考えながら学びたいと思います。
(仙台市青葉区・東北大3年・長内康輔さん・20歳)

東北福祉大インターン紹介 登録生は次の通り(敬称略)。
次世代塾第3期の運営を補助し ▽3年 橋坂耀、内村大樹、橋本瑚都、菅野萌愛
▽2年 木村杏奈、鈴木真羽、菅野里架、武藤有沙、桃井昌華、大友唯衣

メモ 311「伝える／備える」次世代塾を運営する「311次世代塾推進協議会」の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉大、仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工業大、宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、宮城大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構。事務局は河北新報社防災・教育室＝メールjisedai@po.kahoku.co.jp